



# 宇検村・伊仙町・奄美市による 歴史文化基本構想【鹿児島県】

■ 策定年月：平成23年3月 ■ 人口：1,773人 ■ 面積：103km<sup>2</sup>  
■ 担当課：宇検村教育委員会事務局文化財係（平成30年3月現在）  
※以上宇検村情報



宇検村は、伊仙町・奄美市とともに平成20年度から3か年にわたり、文化財の総合的な把握と、保存・活用を推進するための「歴史文化基本構想」の策定事業に取り組んだ。3市町村が相互に関連性のある広域市町村圏として共同で取り組み、奄美群島全体を視野に入れて検討し、沖縄諸島や九州本土とは違う奄美群島に固有な文化財の価値や位置づけを行ってきた。

## 5 歴史文化を表す つのキーワード

大切なもの、親しまれてきたもの、敬われてきたもの、  
将来に引き継いでいきたいもの、守り伝え残したいもの

### 課題

- ・幅広い時代、文化財の掘り起こしを行うこと
- ・沖縄や九州にはない奄美群島に固有な文化財の価値や位置づけを行うこと

### 保存活用方針

- ・文化財の情報収集とリスト化を進める
- ・歴史的、文化的環境を将来に伝えることを基本とする

## 保存活用のための取り組み

### 倉木崎海底遺跡シンポジウム

歴史文化保存活用区域内の倉木崎海底遺跡に関するシンポジウムを開催した。地域住民が遺跡の価値を改めて認識することを目的に実施。シンポジウム二日目には遺跡見学会を計画し、村内外から多くの参加者があった。遺跡の説明板とパンフレット等の整備も実施した。



### 集落探訪ウォークラリー

歴史文化保存活用区域である宇検集落は、「『琉球寫真景』に描かれた景色が残る集落」という特徴を活かし、集落探訪ウォークラリー「古絵図琉球寫真景に描かれた宇検村を巡る旅」を計画。古絵図に関連する集落遺産を巡りながら、クイズに応えるイベントを実施した。



### 墓石調査・食文化調査

文化庁の補助事業である文化遺産を活かした地域活性化事業を活用して、村内の墓石調査と食文化調査を実施した。保存活用方針に沿い、地域の特徴を理解する上で重要な2項目の情報収集とリスト化を行った。墓石調査は報告書を作成し、食文化調査はパンフレットを作成した。



### 集落遺産カレンダー

3市町村共同の歴史文化基本構想の原点となる「市町村遺産」でリスト化した情報を集落ごとにまとめ、イラストで表現した。作成したイラストを活用してカレンダーを制作し、村内全戸に配布した。身近にある文化遺産を地域住民に再認識してもらうことを目的とした。



## ◆ 歴史文化保存活用区域



- 宇検村では、活用地区を「歴史文化保存活用区域」と設定し、保存活用の検討を行った。当外区域は、「南北航路の拠点」である宇検村宇検集落の特徴を示すため、集落と倉木崎海底遺跡を含む。
- テーマは「航路の拠点 南北の文化が融合したシマ『宇検集落』」
- 倉木崎海底遺跡と宇検集落内で発見された礎石からは、中世の海上交易活動の存在を読み取ることができる。
- 近世時代、現在の宇検村は屋喜内間切と呼ばれており、宇検集落が中心地として栄えていた。
- 集落の墓地には、「ダンナ墓」と呼ばれる山川石と加治木石を使用した薩摩藩の役人の墓石群がある。役所跡や射場跡など薩摩藩統治時代を示す文化遺産がある。
- 『琉球寫真景』には当時の宇検集落の様子が描かれており、その対象は往来する船や人々の居住空間など細部にわたる。空間構造の変遷を知るうえで重要な絵画資料。

## ◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

### ① 村の文化遺産の把握

「集落遺産」「市町村遺産」など身近にある文化遺産のリスト化を行ったため、村内の重要文化財（指定文化財等）以外の文化的資源を抽出することができた。指定を受けた文化財だけではなく、生活基盤となる集落そのもの、習慣そのものが貴重な文化遺産であることにより、地域の価値を再認識することができた。



### ② 基本構想に基づいた事業

宇検村では、歴史文化基本構想に基づき補助事業を実施してきた。平成23年～平成27年まで「文化遺産を活かした地域活性化事業」の採択を受け、墓石調査や食文化調査を実施。さらに平成27年には「地域の特色を活かした埋蔵文化財活用事業」の採択を受け、倉木崎海底遺跡のシンポジウムを実施した。開催により村民の遺跡に対する関心が高まった。



### ③ 村の観光事業への影響

地域の歴史や文化は観光資源としても重要な要素であり、リスト化した文化遺産を活用する場もある。観光行政と文化財行政が一緒になり、歴史文化基本構想を基礎にして、活用の方法を試行錯誤することが今後必要となる。その際、「保存」の観点からも集落景観に十分留意することが必要である。

